

様式2

北海道真狩高等学校の行動計画(グローカル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和元年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローカル教育で人材を育てる学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	地域の特性を生かし、教育資源を活用することにより「有機農業コース」と「野菜製菓」コースの充実、発展を図ります。	定期販売会の実施や3年生全員のインターンシップ、プロジェクト学習をとおして充実、発展に努めた。	有機農産物及び定番スイーツの安定した供給体制が必要である。	4
	②「世界と日本をつなぐグローカル」教育を行います。	インバウンドをいかした生徒の英語教育実践機会を提供します。	後志地区のイベントにて英語での接客講習を実施し、英語による販売会を行った。	次年度以降も英語科とより密接に連携していく必要がある。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	講演会や先進地視察を含めた担い手研修を実施します。	JGAP取得に向けた普及センターとの連携や講習、先進地の視察等を計6回実施することができた。	JGAP取得に向けた情報共有と農場の再編を効果的に設定・実施する必要がある。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	日頃の学習を生かし、プロジェクト活動では地域をふまえた課題設定をし、関係機関と連携した専門教育を推進します。	関係機関との連携により、各種コンテストの優勝や商品化・販売に至ることができた。	地域の主要農産物であるユリ根のさらなる有効活用、商品開発に取り組む。	5
III 地球環境を守り創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	有機JAS認定を活用し安全・安心な農産物・加工品の生産製造と地域への発進力を高めます。	プロジェクト学習において、トマト・サツマイモの有機栽培の研究に取り組むことができた。	有機JAS認定に加え、JGAPによる環境教育を取り入れていく必要がある。	5
	⑥「食農」教育を推進します。	農業教育をとおして食べ物を無駄にしない指導を徹底します。	地元小学生との連携学習で生産した枝豆、大豆を食育活動として活用した。また地元保育所に野菜スイーツを提供することができた。	村内小・中学校への食育事業を開拓し、生徒の指導性を高めていく必要がある。	3
IV 地域交流の拠点となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	地域企業・関連団体と連携して大豆100粒運動を実施します。	1年生36名を対象にジュニア豆腐マイスターを実施。我が村は美しく北海道運動で最優秀賞を受賞した。	ジュニア豆腐マイスターを取得した生徒のアウトプットの機会を充実させる。	5
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	村立学校の特色をいかし、保・小・中との連携農業学習をとおして、農業教育活動を地域に提供します。	大豆をとおした食育交流を年4回、そして合同販売会を実施した。 保育園と有機サツマイモを活用した交流を実施した。	生徒主体の食育交流になるように農業クラブ執行部と連携、計画する必要がある。	4
	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	専門学校とのダブルスクールをとおして、加工技術の向上を目指します。	専門学校と協力し、5年連続製菓衛生師合格率100%を達成した。	専門学校と高校での横断的、統合的な学習内容の見直しが必要。	5
V 地域防災を推進する学校	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	危険物取扱や普通救命講習の資格取得を推奨します。 防災意識を高め、各施設、設備、車輛等の点検・管理に努め、生徒の安全教育を推進します。	地域の祭事参加(年7回)やボランティア活動(年3回)の実施。避難訓練の年2回実施。	昨年度の震災で得た教訓を基に、定期的に防災対策の見直しを図る必要がある。	4